

事業番号	07 04 02	事業改善シート (26年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	中華圏旅行者誘客モデル周遊バス運行事業費			担当課	部局	観光部	
総合5か年計画	プロジェクト	1-1-5 次世代産業創出プロジェクト 2-1-4 農山村産業クラスター形成プロジェクト		課・室	国際観光推進室		
	施策の総合的展開	1-2 強みを活かした観光の振興 2 国内外からの誘客・交流の促進		E-mail	go-nagano@pref.nagano.lg.jp		
				実施期間	H25 ~		

1 事業の概要

目指す姿	近年急増している中華圏の個人旅行者(FIT)の誘客を図るため、首都圏、主要空港と長野県内の観光地を結ぶ周遊バスを運行させ、FIT向けのパッケージツアーを造成する。 官民一体となって県内への消費を呼び込むビジネスモデルを構築して誘客による経済効果を高め、最終的(開始から3年後)には民間による周遊バスの運行を目指す。		
現状(予算編成時)	中国の訪日団体旅行はゴールデンルートへの集中と低価格化競争が極端に進んでいる上に、買い物場所も首都圏に限定されているため、地方に経済効果が及んでいない。また、尖閣問題による訪日旅行の減少は引続き影響している。 一方、個人観光ビザの発給要件緩和等により急増している個人旅行者(FIT)は、高付加価値の旅行を指向し、政治問題等にも大きな影響を受けないことから、今後のインバウンドの成否を握る存在として注目されているが、地方への二次交通が十分に整備されておらず、大半が東京滞在にとどまっている。		
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 県内市町村、観光地、宿泊施設、ショッピングエリア等官民一体となった事業モデルを構築する必要があるため、県はその中心において推進と調整を図る必要がある。	
	県民との協働による実施:	検討中	

成果目標・事業内容	① 成果目標(H26)					
	バス利用者による延べ宿泊者数 2,200人泊(44便×25人(乗車率5.5割)×2泊)					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H26事業実績			
			H26(当初)	H26(決算)	H27(当初)	
1. 周遊バス運行費	委託	・周遊バスの運行(44便)		4,040	5,223	5,206
2. 販売促進費	委託	・車内販売パンフレットの作成(2,000部) ・広告宣伝(航空機内誌)		1,296		130
		合計		5,336	5,223	5,336

事業コスト	区分(単位:千円)	24年度	25年度	26年度	27年度
	前年度繰越				
	当初予算		13,648	5,336	5,336
	補正予算				
	合計(A)	0	13,648	5,336	5,336
	Aの財源				
	一般財源		13,648	5,336	5,336
	県債				
	国庫支出金				
	その他	0	0	0	0
決算額(B)		13,648	5,223		
概算人件費					
職員数(人)		0.50	0.50	0.50	
概算人件費(C)	0	4,129	4,129	4,129	
概算事業費(B(A)+C)	0	17,777	9,352	9,465	

成果目標の達成状況					
項目	H25末(実績)	H26			H27目標
		目標	成果	達成状況	
延べ宿泊者数	643人泊	2200人泊	1212人泊	未達成	1152人泊

目標に対する成果の状況	冬のスキー客を誘客のターゲットに絞って実施した結果、H25年度より多くの延べ宿泊者数を獲得することができたが、近年の貸切バス料金の高騰の影響で、予定していたバス本数よりも少ない数の運行にとどまったため、目標に達しなかった。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 ○引き続き、冬のスキー客を誘客の主なターゲットに絞って実施する。
--------------------	---